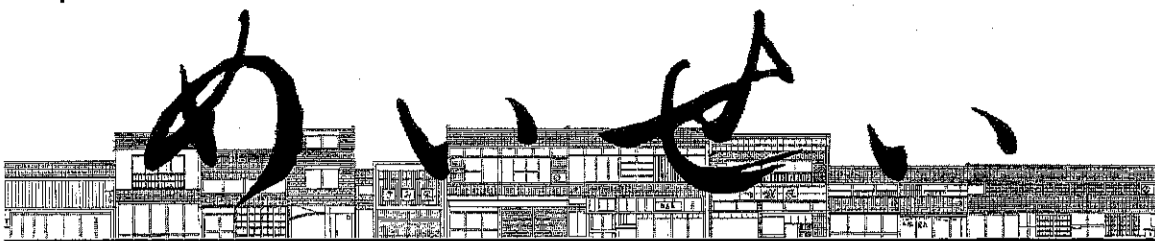


http://www.e-meisei.net

No. 69

発行 (公社)愛知建築士会名古屋西支部
編集 広報渉外委員会
名古屋西支部会報(第69号)
名古屋西支部会報(第69号)
名古屋西支部会報(第69号)



「みずとびあ観月の夕べ」へ
出店して 渥美 大作

観測史上最高の猛暑となった夏も過ぎ、奇麗な月が目を
楽しませてくれるようになった仲秋過ぎの9月21日、清須市
西枇杷島町にて「みずとびあ観月の夕べ」が催されました。



お店の前には長蛇の列、イベントは16:30から20:30まで4時
間に渡りましたが、その間お客が途絶えることなく、延べ
288人の子供たちに輪投げを楽しんでもらうことができました。

一般の人からは少し遠い存在にある建築士が親しみ易
くより身近に感じられるように、美濃路まちづくり推進協会の
力を借り、青年委員会で屋台を出店することにしました。

輪投げは1ゲーム100円で輪を3本投げられて、輪が景品
に掛かれば貰える単純なもの。でもバーチャルなゲーム機と
は違って、実物が響かった輪投げに子供たちは



は違っ、実物が響かった輪投げに子供たちは
はいたく興奮したようで、中には一本の輪を投
げるのに5分ほど思索
していた子供もいま
した。そうこうしてい
るうちに人が人を呼んで

子供たちが輪投げに夢中になっている間、私たち青年委
員会は当初の目的である建築士の周知活動を粛々と進め
させていただきました。小さな子供は親御さんが連れてみえ
ます。その際に「この輪投げは建築士会で出店しています」
とすかさずアピールし、さらにストローハウス等の建築士の
活動を取り上げた「めいせい」を手渡させていただきました。
みなさんに多少なりとも建築士を知っていただく機会にな
ったのではないかと思います。輪投げをしてくれた子供の中
から将来建築士になる子がいたら嬉しい限りです。

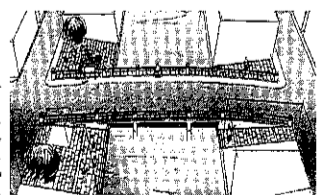
美濃路ウォッチング 白井 鏡造

四間道・那古野界隈まちづくり協議会報告

平成25年7月23日(火)第9回協議会~10月22日(火)第
12回協議会が開催され、その間の概要を報告いたします。

五五橋橋詰ポケットパーク実現へ1歩前進

第10回協議会では、名
古屋市緑政土木局河川
計画課から、堀川圏域河
川整備計画に「堀川周辺
の公共用地を活用した親
水空間整備」のため、五
条橋橋詰に船着場をもつ
公園計画の基本設計費が予算化されたとの報告があった。



堀川圏域河川整備計画における
整備イメージ(五条橋付近)

ク基本計画提案書」を西区長提案として堀川総合整備室
へ提出し、着々と布石をしてきたところですが、最初の提案
から6年、ようやく実現に向け動き始めることになった。河川
計画課担当者からも、私達の提案書はよく理解してるとの
発言もあり、大きな前進に地元委員の方からも喜びの声が
あがった。

・リニア中央新幹線の環境影響評価準備書の公告と名
古屋市内の詳細なコースが8月に発表され、名古屋市の担
当者から、リニア中央新幹線の状況と、名古屋駅周辺まち
づくり構想について説明があり、四間道・那古野地域との
関わりに関心が集まった。

・美濃路に面した川伊藤家の表倉が日本酒バーとして活
用されることとなった。8月23日(金)、愛知県設楽の蔵元、「蓬
萊泉」、「空」で有名な関
谷醸造が「圓谷」を開店。
こだわりのSAKE BAR。
当支部会員市原正人民
の設計。外観は既存をほ
ぼそのまま残し、内部は改
装し、耐震補強をした上、



第2回
「みのじオータムコンサート」を
鑑賞して

伊藤 顯
11月10日(日)午後
7時より昨年度に続き、
美濃路まちづくり推
進協議会と枇杷島
みのじ会によるコン
サートが「みのじの館」にて開催されました。足元の悪い中、
20人の出席者で館内はほぼ満席でした。



今年名古屋西支部の江口さんの御子息・江口雄人
さんと友人の長谷川育世さん二人によるヴァイオリンとヴィ
オラの弦楽デュオでした。白井会長の挨拶のあと、江口さ
んの奥様による司会進行でコンサート開演です。

「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」で始まり、NHK朝の
連ドラで注目を浴びた「潮騒のメモリー」を含む6曲を楽し
んだ後、アンコールの拍手により「浜辺の歌」で締めくく
る1時間弱の素敵なコンサートとなりました。伝統的な和風
建築の中で少しアルコールを傾けながら聴くコンサートは
格別なものがあります。

このような素晴らしい時間と空間を提供していただいた
皆さんに感謝申し上げますと共に、来年もぜひ開催してい
ただけるよう期待しております。



古い米蔵の空間を活かした店造り。前号で屋根が壊され
た表倉を紹介したその倉が変身し、美濃路・四間道にお洒
落な空間ができた。まちなみ保存の取組みとして、これから
の行方を見詰めて行きたいと思ひます。

清須越400年ネットワーク報告

南寺町史跡説明版は設置予定地の了解を得るため、
11月4日(休)極楽寺を訪問したが、門周りを含め工事計画
中のため、了解を得られなかった。急遽、大須公園に設置
予定場所を変更したため、関係官庁への根回しが必要とな
った。また、名古屋商工会議所のまちづくり助成を申請し、「清
須越400年南寺町ウォッチング」開催も目指しています。

みのじの館

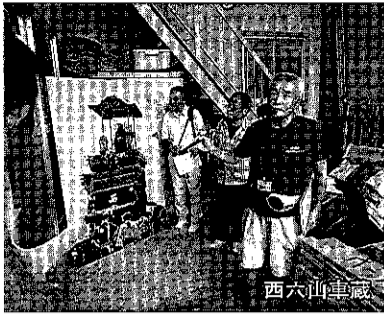
10月17日(木)みのじの館に西枇
杷島小学校3年生の児童が訪問し
ました。「たんけん西枇杷島」と題
して、5人の児童と担任の先生、父
兄2名が訪れ、美濃路についてたく
さんの質問がありました。子供たち
が郷土の歴史を懸命に学ぼうとい
う姿勢に、新鮮な感動を受けました。



愛知県 平成24年度 1級建築士 設計製図試験
合格者占有率 No.1 65.8%
総合資格学院 名古屋校 TEL.052-202-1751

SMD杭 スーパーミニドリル
DM工法 SMD杭工法シリーズ
HITSコラム
株式会社 本陣

第1回研修見学会 清須 美濃路の町家(柴田家住宅)他 水野 志保 (9月7日)



西六山車蔵

清須市ではガイドボランティアによるモデルコースがあり、訪れる観光客に名所・旧跡などを案内してくれます。今回は下小田井の市の

栄華を偲ぶコースが基になった見学会でした。東海道と中山道を結ぶ美濃路は江戸初期には青果を扱う下小田井の市が開設され町並みが形成され、今も往時の面影が感じられます。最初に訪れた西六山車蔵は、200年余の歴史をもつ尾張西枇杷島まつりの5輛の山車の1つ紅塵車が収納されています。この時は解体修理中で山車はなかったのです



問屋記念館

が絵図がないのに解体して修理し、組み立てることを毎年繰り返しているそうです。樫棒に使われる芯なしの樹齢400年のヒノキ材がストックされていました。

次に訪れた問屋記念館。枇杷島市場は下小田井の市と呼ばれ1600年代初期に始まり、江戸の神田、大阪の天満に並ぶ日本三大市場として栄え、その経済繁栄は地域文化・芸術などにも影響を与えているようです。当時問屋が42件ほどあり、野菜を商う問屋として旧山田九左衛門家住居は濃尾大震災を乗り越え、明治の初期に建てられ美濃路を形成してきた町家のなかでも、江戸時代の青物問屋の様式を伝える問屋記念館として移築復元されています。普通町家の二階は納戸や納屋のようになっていることが多いが、問屋記念館は農家の人が早く来て仮眠する場所として天井高が高くなっているそうです。尾張の町家は屋根の荷重が全て梁にかかっているため梁せいが大きく、柱がとんでいるとのこと。町家づくり



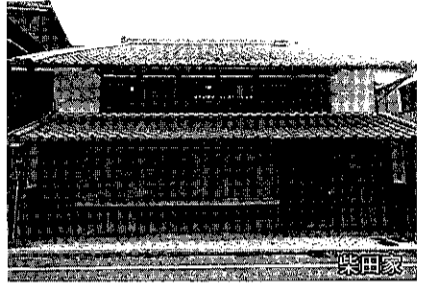
柴田家の説明

で地域の特徴があることを知りませんでした。荷馬車と大八車ですれ違うのも大変なほどの混みようだったという写真やジオラマ模型などの興味深い展示があります。

最後に柴田家住宅はガイドボランティアをしていただいた当主柴田さんの解説で改修工事時の様子や工事経過の説明、建築様式・構造など隅々まで見る事ができました。

江戸・明治時代の資料から二ツ木の地名の説明や、美濃路の間口が狭く奥行きが深浅混在した町並み形成の流れなど興味深い話を聞かせていただきました。今回見る事ができなかったお茶室は西枇杷島まつりで開放して見学が可能とのこと、次回の西枇杷島まつりで是非見学させていただきたいです。

現在公開されている映画「清須会議」で注目される清須市、歴史の流れが身近に感じられるわくわくする見学会でした。



柴田家

第2回研修見学会 秋の神戸 日帰り研修見学 平手 公基 (10月19日)

名古屋駅新幹線メディアワン前に集合し、30余名の参加者を得て、7時40分を数分過ぎて出発し、一路最初の見学地、竹中大工道具館へ向かった。ここでは木造建築の様式の多様化、造形美、それを具現した高度な技術と優れた職人の技能で他国に比類のないわが国の建築を支えてきた大工道具を間近に見ることができる。



竹中大工道具館

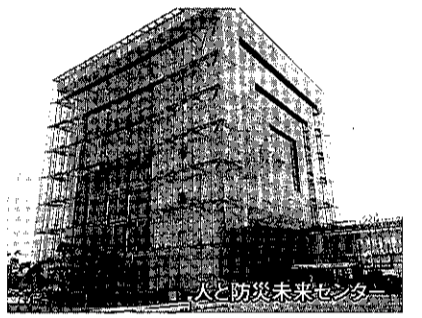
1階では宮大工が自己研鑽のために構造もそのままに作り上げた法隆寺五重塔の精巧な模型に心打たれた。それを囲むように名工が鍛え上げた美しい輝きを放つ道具が整然と並ぶ。職人の汗、手垢の浸み込んだ実際に使われていた道具の佇まいに見入った。

2階では山から木を伐りだして材木に製材する職人が使う大型の道具を手始めに、大工が部材の荒加工から仕上げに至るまでに使う一連の道具を詳しく解説してある。それらの道具の使い方、作り方が理解できる模型や映像も充実しており、直感的に理解を深めることができた。

3階では道具の発展の歴史を石斧の時代から分かりやすく展示してある。アジアやヨーロッパの道具の展示もあり、その共通点や相違点を解説していただいた。解説員曰く、世界のどこを探してもわが国のような高度な木工技術を持った国は皆無だそうだ。この国に生まれ、木造建築という分野で仕事ができる幸せと誇りを感じずにはいられなかった。

心を満たした後はお腹を満たしに神戸南京町中華街にある鹿鳴荘にて楽しい昼食。そのあとは神戸港震災メモリアルパーク見学の予定であったが時間調整のため割愛となり、人と防災未来センターへ。阪神・淡路大震災の豊富な映像、音響、模型、体験談で被災から復興の道のりを追体験できる。得られた知識を耐震診断業務、耐震補強設計業務に反映していこうと思う。

最後は新神戸トンネルを利用して六甲山地を抜け、鎌倉時代に建てられたわが国最古の民家とされている国指定重要文化財箱木家住宅(箱木千年家)に到着。第51代当主の箱木氏直々に詳しく説明頂いた。背後の里山、周辺の田畑、茅葺の屋根、土壁、囲炉裏、濡縁、等々が作り上げる気負いのないわが国の原風景に、私の心はすっかり癒されてしまった。縁に腰かけ何時までも浸っていたい気持ちに後ろ髪を引かれつつ帰路に着いた。



人と防災未来センター



箱木千年家

心配された渋滞、雨もさほどではなく、非常に内容の充実した楽しい見学会となった。

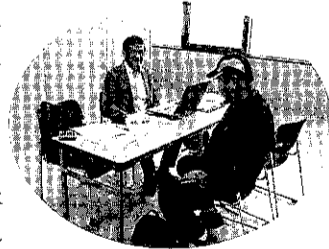
「北名古屋市 民間木造住宅耐震改修相談会」報告 岡島 直樹

当支部では平成15年より合併前の師勝町の頃から「民間木造住宅耐震改修相談業務」に関わっており、今年度も10月30日(水)に第1回の相談会が開催されました。

木造住宅の耐震診断を受けた方が、耐震改修にスムーズに移行できるようにと始められた相談会で、当支部でも事業のスタート時から運営の方法など一緒に作り上げてきたものです。

事業の内容は、相談日が2回設けられ、各回2人の建築士が各3組まで相談を受け、午前中に診断結果を基に改修プランを作り、午後実際に面談しながら改修方法を説明していくものです。

市の行う耐震診断の報告では、邸別に具体的な改修方法は示されないで、改修を考えていても次にどうすれば良いかわからない人や相談をしたくても費用等の面から誰に相談し



たらよいかわからない人も多く、この相談会で実際に改修プランが示されることで、改修へ前向きになるようです。

今年は市が以前の診断ソフトである「我が家の耐震診断」を使って診断した方も対象に、耐震診断を受けた方にアンケートを実施して、この相談会を周知した。例年より「我が家の耐震診断」からの相談も多く、「WEE」に入力し直して改修プランを作る必要があり、少し手間が掛かる案件もありましたが、スムーズに相談を終える事ができました。

防災出前講座

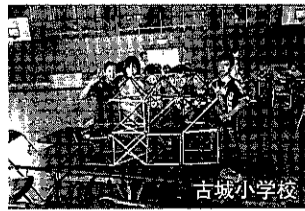
牧野 正

今年度も、清須市の全小学校8校にて、5年生を対象に防災出前講座を行っています。講師は牛田信彦氏、岡田巖氏、牧野正です。

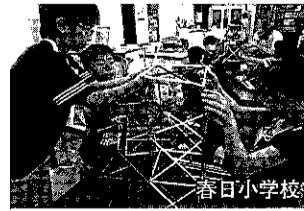
昨年と同様、1時限目はプロジェクターを使いながらの講義を行い、2時限目は生徒にストローハウスを作ってもらいます。

7月3日は春日小学校、7月5日は古城小学校、9月9日は清洲小学校、9月11日は新川小学校、10月7日は星の宮小学校、11月6日は桃栄小学校で講座を行いました。

11月27日は清洲東小学校、12月4日は西枇杷島小学校で講座を行う予定です。どの学校の生徒も真面目で一生懸命です。授業終了後にも質問をしに来る生徒もいるほどです。できるならば来年度以降もこの活動を続けていき、「いのちの大切さ」を理解してもらい「防災に対する備え」を普及させていきたいと思ひます。



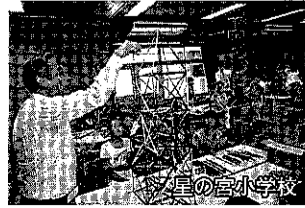
古城小学校



春日小学校



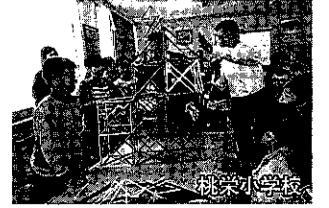
新川小学校



星の宮小学校



清洲小学校



桃栄小学校

# 山歩き同好会

## 「紅葉の蛇峠山」

株式会社ウエルオン 後藤 高男

11月3日、週間天気予報では雨でしたが、当日は見事に晴れ、朝7時半に中央道恵那峡SAに集合しました。今回は大山さんも久しぶりの参加となりました。圏原ICを降り、治部坂高原観光センターへ到着。私達と同様、蛇峠山を目指すグループもちらほら見えました。

治部坂高原の別荘地を抜け、いよいよ遊歩道へ。看板には遊歩道と書いてありましたが、実際には息が切れる坂道でした。途中、何度か車道と交差し、馬の背と呼ばれる展望地へ到着しました。下には車を降りた治部坂峠、向かいには以前の山歩き会で登ったという大



川入山を展望することができました。馬の背からは急坂を登り続け、レーダー雨量計が立つ狼煙台跡に到着しました。ここで



は、北・中央・南アルプスの山々を一望することができ、来年はもっと山に登りたくなりました。ここからは、隣にある蛇峠山頂上まで往復しました。

帰りに期待していた山の幸の収穫が無く、一気に下り、あっという間に登山口へ到着しました。登山口付近は見事な紅葉で、特にモミジの真っ赤な色が印象的でした。レストハウスでコーヒータイムの後、帰りは道の駅をはしごして地元の野菜等を買込み、帰宅の途に就きました。

短いコースだったにもかかわらず、素晴らしい山々の展望と、見事な紅葉を楽しむことが出来た山行でした。

# 新入会員の抱負

永井 政光



私は今年、縁あって愛知建築士会に入会させて頂くことになりました。多少の不安もありましたが、「25年度名古屋西支部暑氣払い」に参加させて頂いた際、皆様にとってもフレンドリーに歓迎して頂き、本当に素晴らしい会だなあと感じました。

私は現在、北名古屋市内で代表を務めている永井政光建築設計事務所を2008年2月に開設しました。それまでは、設計事務所と、ゼネコンの設計部を2社経由し、その間、伝統構法設計第一人者のお一人である松井郁夫先生が主催されている「木組ゼミ」という勉強会に3年間、東京まで毎月夜行バスで通わせて頂きました。

その木組ゼミで学ばせて頂いたことが、現在の私の原点になっています。手刻みで仕口や継手を加工する伝統的な家はまだまだ可能なんだなあと感じ、これからの日本の家に対して大きな可能性を感じたのを今でも覚えています。

私は元々モダンな建築も大好きで、シカゴのオークパークを始めとするフランク・ロイド・ライトの建築や、バリ近郊にあるコルビュジェのサヴォア邸、フィンランドにあるアルトのスタジオや自邸なども好んで見に行きました。

そのような伝統とモダンの融合、江戸、室町、鎌倉、平安、奈良、それ以前の伊勢神宮まで連なる長い日本の歴史や文化、伝統技術をしっかりと受け継ぎ、かつ、いわゆる世界の主流の建築の良さも取り入れた、これからの日本にふさわしい美しい住宅が出来ないものかなあ、と日々模索や葛藤をしながら設計活動を続けています。

なかなか手がかりが見つからず悶々とした日々を過ごしているのですが、ヒントだと思えた一つは、今年、勉強のために宿泊した俵屋旅館です。私の尊敬する吉村順三氏が新館を設計されたそうですが、何と言ったらいいか、日本の伝統にしっかりと根を張っているにもかかわらずカッコいい「和」、どこか現代的で洗練された「和」とでもいうのでしょうか。

新しい価値観を世に問える建築家を目指して、今後も頑張っていきたいと思っています。

また、これから建築士会の諸先輩方と一緒に、建築士という職能を活かして社会に貢献していけたらとも思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

# 私のおすすめ

皆様、こんにちは。今年四月に建築士会に入会しました、今井淳一と申します。これから、名古屋西支部の皆様と一緒に愛知建築士会を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それでは、本題の「私のおすすめ」ですが、私の今のおすすめはジョギング・ウォーキング・サイクリングです。…3つも？と思われるかもしれませんが、どれも一人でも気軽に出来るので、なにかスポーツを始めたいという方や最近運動不足だと思っている方に、とてもオススメです。

なぜ、ジョギングかと言うと私自身、中学、高校、大学と陸上競技に明け暮れていました。専ら、現役時代は短距離を専門としていたので、長距離は苦手でした。しかし、現役を退いてからは、そんな激しいランニングは出来ないで、自分のペースでできるジョギングやウォーキングをしています。特に、仕事等で息詰まっていることがあったりすると、ジョギングすることでいい気分転換になります。また、外の空気に触れることで、四季折々の空気や匂いを感じることが出来ます。

あと、サイクリングですが、昨今の自転車ブームに私自身も乗っかり、最近クロスバイクを購入しました。ジョギングやウォーキングに比べると、多少費用が掛かってしまいますが、こちらも自分ペースで出来るのでいい気分転換になると思います。

文章構成が下手で、見苦しい部分もあったと思いますが、最後までお読みいただきありがとうございました。今後とも、よろしくお願い致します。

# 建築総合展NAGOYA2013・建築士デー

山田 正博

第43回建築総合展が「美しい日本を求めて」のテーマのもと、135小間、出展企業・団体77社により吹上ホールにて10月3日より3日間開催されました。

今回も専門家向けのセミナーが充実し、会場内2ヶ所のスペースにて岐阜県立森林文化アカデミーの協力による「ウッドカレッジin名古屋」の開校、出展社と建築士会による各種セミナーが35



講座企画され、4階会議室では講演会・シンポジウム・学生コンペ公開審査が行われました。

また、会員作品展には西支部会員より多数の作品が出展され、人材の豊富さと積極的に取り組む活動が感じられました。

恒例となった展望ホールでの建築士デー懇親会も盛況で、北支部有志によるバンド演奏もあり、お楽しみ抽選会には各支部から珍しい品々が提供され名刺の名前を呼ばれるたびに歓声が上がって親交を深めることができました。建築士デー参加の皆様お疲れ様でした。

# 学生コンペ開催

山本 とし

2013年10月5日(土)、第43回建築総合展NAGOYAの最終日、名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)の9階展望ホールに於いて学生コンペを開催しました。早いもので今年が第8回となります。

今年の対象地は犬山市でした。「観光都市INUYAMAの未来」とし、大学院・大学・高等専門学校・専門学校・高校で建築を学ぶ在学学生に参加資格があり公募により参加して頂くことができます。

当日は最終審査会が開催され、1次審査から勝ち上がってきた7作品が最優秀賞を目指してプレゼンテーションを観客を前に行いました。毎年持ち込まれる模型もとても手がかかっています。審査も公開ですので興味深く面白いです。

最優秀賞には工学院大学の作品「小さな蔵が紡ぐ街」が僅差で当選しました。また優秀賞は地元の名工大と名市大の作品が入りました。

今年の審査委員長は吉村靖孝氏にお願いしました。ご多忙の中、昨年の石上氏同様、第1次審査から対象地の犬山に来て下さり、応募作品全てに目を通された極めて誠実な印象の方です。当日は東京から集合時間前にピシッと到着され、白色ベースの服装と持ち物はこ



れぞ貴公子といった風合いでした。

今回の特徴は今まで一番作品数が集まらなかった事と、公開審査時の観客数の少なさです。これは敷地が広範囲過ぎて手を付けにくかったのか、応募の時期が学生と合わなかったのか建築総合展の在り方etc.と私達も次回に向けて反省するところが多々あります。参加学生が男子だけだった事も印象としてあります。やっぱり女の子がいると華やきます。闊達な女性の活躍も期待したいところです。



# 「水彩画スケッチ同好会」に参加しませんか

副支部長 岡田 巖

今般、(公社)愛知建築士会運営会議で「水彩画スケッチ同好会」の発足が承認された。年令や支部の枠を超えた、会員相互の親睦と友情を育み建築士会の発展に寄与する目的で発足し、会員を募集します。

活動概要：月1回の屋外スケッチの開催及び室内での画材、技法、特性の勉強会。

：会員作品の展示会を開催。

会費：原則無料。

申込方法：申込書にご記入の上(公社)愛知建築士会事務局へFAXで申込。

問合せ先：岡田建築設計事務所 岡田 巖(発起人)  
TEL052-502-7771 FAX052-502-7521  
E-mail : oaa@estate.ocn.ne.jp

申込書や詳細は「愛知の建築」11月号に掲載。是非皆様の参加をお待ちしています。

# ついに日本も 竜巻多発地帯になるのか？

## そして建築士の対応は…

提案 馬場 富雄

はじめに

「今までに経験したことのないような～」とは今や気象庁の気象発表の名セリフである。このセリフが毎年続けば、今後の気象現象はどうなるのかと心配である。

今回取り上げた竜巻も、今よりもっと多発することになれば、人々は「いつ自分の家がやられるかわからない」という心配が増幅して、「命を守る避難所を造ってくれないか」という設計依頼も今後は充分有り得る。

そこで、建築基準法第一条に掲げる「国民の生命を守る」ということから、建築士はこれに対応しなければならない。

筆者はこれを「竜巻防御ハウス」と名付けて、その例を説明しようと思う。

先に述べたように、建築主から「竜巻防御ハウス」の設計依頼があった場合には、その設計の参考資料になれば幸甚である。

### 【竜巻防御システムハウス設計のための必要条件】

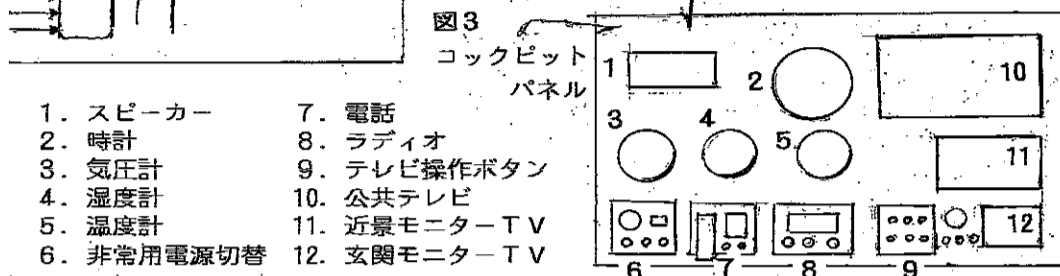
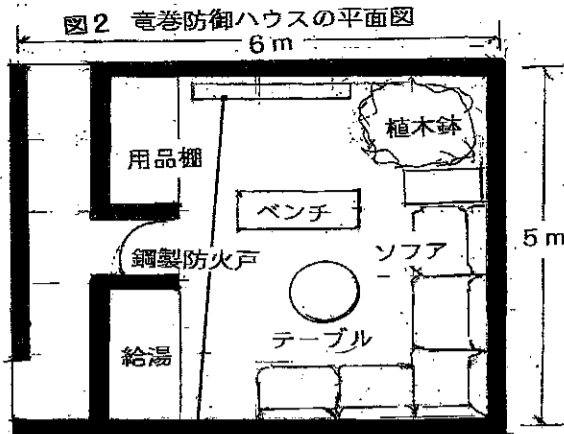
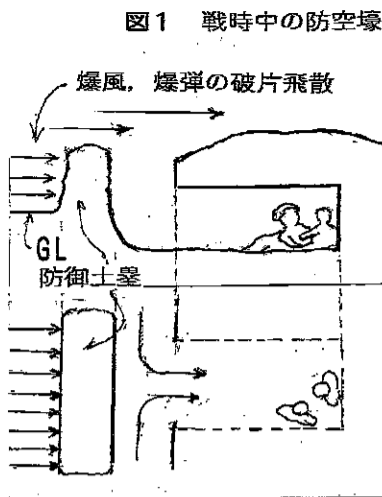
#### ● 避難時間が相当長くなるための対応

竜巻の発生が「いつ、どこで、」という予告は現時点では絶対に不可能であると気象庁は言っている。となれば、台風が近づき、竜巻注意報が発令されてから台風が去るまでの間ずっと防御ハウスに居なければならない。

そこで、家族数人で待避するとき、そのための広さや時間の居住環境を考えるべきである。避難時間はだいたい5時間くらいになるであろう。

#### ● 防御ハウスはズンぐりで非常に重いこと

竜巻の吹上力は、車が空中に舞い上がり、何十メートルも飛ばされるのであるから、この吹上力に勝つためには吹上力に勝る重量を持っていることである。したがって、当ハウスの設計は鉄筋コンクリート造りとし、それぞれの部材厚は床板30cm、外壁18cm、屋根板15cmである。総重量は約50tとなる。この小さい面積で50tの物体を持ち上げるような竜巻はまだ日本には発生していない。



- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. スピーカー   | 7. 電話         |
| 2. 時計      | 8. ラジオ        |
| 3. 気圧計     | 9. テレビ操作ボタン   |
| 4. 湿度計     | 10. 公共テレビ     |
| 5. 温度計     | 11. 近景モニター-TV |
| 6. 非常用電源切替 | 12. 玄関モニター-TV |

#### ● 外壁には開口部(窓)を造らない

今までの竜巻被害の例をみると、窓という窓は悉く破られて、そこから自転車やはしご等の大きな物までが飛び込んでいたりしている。そんなところにいたらガラスの破片や飛散物等で命が脅かされる。したがって今回の防御設計例は丈夫な窓というよりも、思い切って「窓なし」とした。無窓室の安全性については後述する。ただし出入口の開口部は必要であるため、その竜巻に対しての防御は設計の重要ポイントとなる。これには戦時中の敵機の爆弾投下に備えての防空壕の設計がおおいに参考になる。軍の命令で各所に造られた防空壕の標準例を図示する。(図1)

すなわち、防空壕の出入口を爆弾の爆風や破片飛散から防御するために土塁を築いている。今回の防御ハウスも条件は共通しており、この設計方法を採用した。なお、浸水等の最悪の場合を考えて屋根板に脱出口を設けておく。

#### ● 外部の情報をしっかりハウス内に取り込む

建築基準法第28条では、住宅等の居室には採光のための開口部を造るよう義務づけている。これは人間の脳の安定のためにである。

すなわち、脳は外の情報を常に入手して行動計画を立てているのである。このまま部屋にいてもよいというも行動

計画決定のひとつといえよう。ところが外の情報を入手できないとなるとどうなるか？窓のない部屋に長時間人を閉じ込めると、脳は外の情報を全く入手できないため、行動計画がたてられず、脳がパニックに陥ることは実験でも確かめられている。特に部屋の照明がない場合は脳のパニックが早くなる。夜中に起きた大地震で停電した場合、非常用照明設備の有無は脳のパニックに大いに影響する。このことから、防御ハウスは窓を造らないため設備を使って外の情報を入手できるようにしなければならない。設計例はコックピットスタイルのパネル板を設置して、外部の情報を入手するようにした。勿論非常用電源設備も設置する。

次の図は防御ハウスの平面図(図2)と、コックピットスタイルのパネル板(図3)の一例を示すものである。

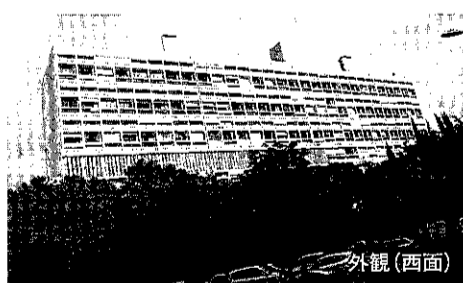
#### ● 外観は自然に和むように考える

防御ハウスの外観は、大きなコンクリートの塊(カタマリ)になるので、通行人等に異様な感じを与えるかもしれない。これはあまり好ましいことではなく、例えば茶色と緑のツートンカラーで塗装するのも一方法である。また、蔦草を這わせたり植木棚等を併設するのもよい。更に敷地が広い場合は樹木等で隠してしまうのもよい。

## コルビジェを訪ねて ③

志賀 勝則

### “ユニテ・アビタシオン”



コルビジェ65才(1952年・昭和27年)の作品。南フランス・マルセイユに建てられたシリーズ第1作目の集合住宅。1500人ほどが生活する337戸の集合住宅は、実は垂直方向に伸びた都市計画。メゾネット住戸を2層に重ねて、3層単位の構成でエレベーターは3フロアーに一つの乗り場で足りる。

館内にはスーパーやホテル、屋上には体育館、プール、幼稚園も併設。提唱する屋上庭園は子供たちが走り泳いだりする遊び場でもある。住戸の2.26mの天井高さは、コルビジェが手を挙げた高さ(身長183cm)。リビングの天井高さはその倍の4.5mもあり、解放的で部屋の奥まで光が射す。彼の提唱する有名な“モジュール”がこの頃から使われ始めた。

この住人はこのマンションを“コルビジェ”と呼んでいる。60年前の実験住宅は今でも入居待ちのデザイナーズマンション。住んでいる人の誇りが実感できた訪問でした。



## 春夏秋冬

設計の仕事に就いて随分経つが、この仕事は忙しい程動かなくなるので、慢性的に運動不足になってしまっている。

毎年の健康診断の結果を見ると、再検査の項目が増えており、このままではヤバイ！今年こそは生活を改めねば！と思うのだが、なかなか実行に移すことができないでいる。

それでも2年程前から毎朝通勤時に3km歩くように心がけているのだが、なかなか体重が減る気配は無い。そういえば、独身時代は駅から自宅まで片道2.5kmを毎日歩いていたが、体重は順調に増加していたので、どうやら自分にとって3km程度の歩行は運動の内に入らないようだ。

改めて周りを見渡すと、皆同じような生活をしているはずなのに、体型が変わらない人もいます。実に羨ましい限りで、自分とは何が違うのだろうかと考えてしまう。

加藤 裕三

## 編集後記

2020年東京オリンピック招致が決定したことは記憶に新しい。そのプレゼンテーションでのパフォーマンス「おもてなし」は今年の流行語大賞を狙いそうな勢いがある。

ふと思う。私たちは、仕事の上で物事に常に真摯に向き合う姿勢を崩さず、裏も表もない。つまり、「うら・おもて・なし」の世界で生きていくと云うことだ。

鶴岡 正樹

**住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事**  
集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗

豊かな環境を創造する  
株式会社 **ムラテ**  
〒453-0861 名古屋市中村区岩塚本通1-51 TEL052-411-8111 FAX052-413-1036  
津島(営) TEL 0567-31-0780 名岐(営) TEL052-400-1291

テレビ愛知毎週土曜PM6:30  
「ホトチャンネル」CM提供中  
URL <http://www.murate.com/>

Total Media Support

**WELL ON** 株式会社 **ウエルオン**

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号  
TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178  
URL <http://www.well-on.co.jp/>

16190101(03)  
JIS15001200648